

樹医からのアドバイス (Vol.19)

～早春を彩る花木「ロウバイ」を育てよう～

出雲市樹医センター

樹医 高橋 義則

ロウバイはまるでロウ細工のような黄色い花を咲かせる、中国原産の落葉低木です。日本の気候によく合った樹木で、冬の寒さや夏の暑さに負けず、早春に香り高い花を咲かせます。

ロウバイは、江戸時代初期に日本へ渡来し、生け花や茶花、庭木として利用されてきました。他の花木に先駆けて、12月～1月ごろ、香りのよい花を咲かせます。

一般的に、園芸品種として植えられているのはソシンロウバイが多く、花もきれいです。病気にかかりにくく、害虫も付きにくいいため管理がしやすい花木です。

【ロウバイの育て方】

ロウバイは日光を好むので、庭植えする際は、半日陰から日なたに植えつけましょう。また、過湿に弱く、根腐れを起こしやすいので、水はけのよい場所が適しています。冬に開花するため、寒風の当たらない場所を選ぶのがよいでしょう。

肥料は、成長期の4月～5月と、寒肥として12月に、緩効性化成肥料（チッソ：リン酸：カリウム＝10：10：10）や有機質肥料（固形の油かすなど）を施します。花が付いていない若木には、9月上旬に追肥として通常の半量を施します。

【せん定】

花が終わったのち、長く伸びた枝や間伸びした枝を20cmほど残してせん定します。また、内側に向かって伸びる枝は、樹形を乱し、日光を遮るので切りましょう。

